

授業科目名 (英文表記)	食と農の経済学 (Agricultural and Food Economics)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	大西 敏夫		
開講	岸和田サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 12月6日(土) 12:30~17:00		
	第2回 12月13日(土) 13:00~17:00		
	第3回 12月20日(土) 13:00~17:00		
	第4回 1月10日(土) 9:00~12:30		
	第5回 1月24日(土) 13:00~17:00		
	第6回 1月31日(土) 13:00~17:00		
<p>【授業のねらい・概要】 日本人の食生活・食料消費と農業とのかわりについて経済学的視点から学習することによって、理解を深めます。そのため主に、①食料需給をめぐる世界と日本の事情、②食生活・食料消費構造と食関連産業、③フードシステム(食の生産・流通・消費)と食農ビジネス、④食の安全・安心と日本農業、⑤食育・地産地消と地域農業、⑥食と農をめぐる再生と課題についてそれぞれ取りあげ、講述します。</p> <p>【授業計画】 第1回 「食料需給をめぐる世界と日本の事情」 食料需給をめぐる動向と特徴について紹介し、世界と日本の事情および諸問題について考えます。 第2回 「食生活・食料消費構造と食関連産業」 食生活・食料消費構造の変化とその背景を踏まえながら食関連産業とのかわりについて考えます。 第3回 「フードシステムと食農ビジネス」 現代のフードシステムについて紹介しながら、食農ビジネス(都市農村交流、6次産業化など)について考えます。 第4回 「食の安全・安心と日本農業」 食の安全・安心について、食料安全保障論を踏まえながら「量」と「質」の両面から考えます。 第5回 「食育・地産地消と地域農業」 食育や地産地消を促進させる立場から、地域農業が果たすべき機能・役割、自治体農政の役割について考えます。 第6回 「食と農をめぐる再生と課題」 生産者と消費者との連携をベースに、日本の食と農をめぐる再生と課題・展望について考えます。</p> <p>【到達目標】 食生活・食料消費と農業とのかわりについて経済学的視点から理解を深めるとともに、食料需給事情、食生活と食関連産業との関係、フードシステムと食農ビジネスの展開方向について学習する。また、食の安全・安心の確保、食育、地産地消をすすめるうえでの日本農業・地域農業の役割について学習し、食と農の再生のための問題関心を醸成する。</p> <p>【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布する。また、視聴覚機器(ビデオなど)を利用し、学習意欲を高める。</p> <p>【参考書】 橋本卓爾・大西敏夫・藤田武弘・内藤重之編著「食と農の経済学」ミネルヴァ書房、2006年、ISBN 4623040127。 橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編著「都市と農村 交流から協働へ」日本経済評論社、2011年、ISBN 9784818821552。 高橋信正編著「「農」の付加価値を高める6次産業化の実践」筑波書房、2013年、ISBN 9784811904306。</p> <p>【授業時間外学習】 適宜配布する資料等について復習するなど、各自、自主的に学習してください。</p>			